

(所管事項)

1 「三重県リニア基本戦略（仮称）」最終案について

「三重県リニア基本戦略（仮称）」については、昨年12月から本年1月にかけて中間案に対し、パブリックコメントを実施するとともに、有識者や経済団体、市町への意見聴取および庁内での議論等を行い、最終案をとりまとめました。

1 最終案に向けた意見照会の結果（意見総数：153件）

対応区分	パブ コメ	県議会	有識者	経済 団体	市町	庁内	計
①最終案に反映するもの	28	3	24	2	5	18	80
②既に反映されているもの	2		2				4
③今後の参考にさせていただくもの	57			2	4	3	66
④反映又は参考にすることが難しい	3						3
計	90	3	26	4	9	21	153

(参考) 中間案作成時：計 335 件（有識者 38 件、経済団体 107 件、市町 169 件、庁内 21 件）

2 中間案からの主な変更点

3 リニア開業がもたらす効果

(1) リニアがもたらすインパクト

項番	ページ	意見の概要	対応
1	5	日本の中心に位置する三重県が、リニアによって全国各地とより近くなることで、今後大きく飛躍する可能性があることを表現した方が良い。(有識者)	P5に日本全体の高速交通網を示した新たなページ（イメージ図）を追加。
2	6, 19	リニア等の建設にあたっては、災害に対するリスク対応もかなり高いレベルで建設されることから、高速道路とあわせて災害時の復旧・復興にも大きな力となる可能性がある。(有識者)	・P6に災害リスクの■として以下を追記。 「新幹線・高速道路ネットワークとの連携によって日本の交通の要衝となり、大都市圏の中核機能のバックアップ拠点や災害時の復旧・復興にも大きな力となる可能性が期待されます。」 ・P19に4つ目の■として以下を追記。 「リニアがもたらす防災上の効果を最大限に発揮させるため、災害時の支援拠点として防災拠点機能の補完・強化や効率的なエネルギーの運用などによる災害に強いまちづくりを検討していきます。」

(2) 懸念される課題

項番	ページ	意見の概要	対 応
3	7	懸念される課題を示すだけでなく、課題に対する取組やリニア開業によって期待される効果と併せ、より丁寧に記載した方が良い。(有識者)	課題に対し、県の取組を示しながら全体の文章を再整理。
4	7	三重県駅の開業に向けて県民の皆さんと歩いていくためには、人を呼び込むだけでなく、県民自身の生活の利便性向上の視点も重視することが必要である。(庁内)	P7の1つ目の■を「～未来デザインを描き、 <u>県民生活の利便性向上に資する取組</u> や、県をまたぐ広域から人やモノを呼び込む取組を進めていきます。」に修正。
5	7	リニア新幹線の名古屋ー大阪間ルートに関して地震リスクが極めて高い三重県の伊勢湾沿岸部にルートを設定することは、いくつかの活断層帯があるところを横切ることになるのではないかと不安である。(パブコメ)	5つ目の■として以下を追記。 「巨大災害リスクの切迫が懸念されます。そのため、リニアの整備にあたっては、巨大災害リスクに対するリダンダンシーの確保に資するよう、駅をはじめとした施設全体の災害に対する強じん性を高めることなどを事業主体であるJR東海に対し求めるとともに、災害に備えた取組を検討していきます。」

4 めざす三重の姿

(1) 新たな玄関口から始まるこれからの時代には選ばれる三重

項番	ページ	意見の概要	対 応
6	8, 9	リニアが出来た10年、20年後を想定した場合、どういった社会を目指すのかについて、もう少しわかりやすく示した方が良い。(有識者)	・P8に総合計画「強じんな美し国ビジョンみえ」で示す、めざす三重の姿を記述した新たなページを追加。 ・P9の「めざす三重の姿」を再整理。
7	9	三重県は二地域居住やワーケーションへのポテンシャルがかなり高い。(有識者)	P9のめざす姿の3つ目に「 <u>癒しの空間「日本のサードプレイス」</u> として、」を追記。

(2) 選ばれる三重となるために

項番	ページ	意見の概要	対 応
8	10	・名古屋駅へ向かう方が優位性の高い地域においては、リニア名古屋駅との時間距離の一層の短縮を図る必要がある。 ・次世代交通に対応することも重要ではあるが、既存インフラの価値を最大限高め効果的に活用することこそ重要であると考える。(以上、パブコメ)	・P10に「また、東京・名古屋間、東京・大阪間の段階的な開業を見据え、それぞれのステージに対応した取組を進めていきます。」を追記。 ・2つ目の■を「 <u>既存の交通インフラを最大限に活用しつつ、リニア駅からの乗り換えの効率を追求して、出発地から目的地まで円滑に移動できる環境をめざします。</u> 」に修正。

5 めざす三重の姿にむけての3つの基本戦略

戦略1 リニア時代の新たなライフスタイルのイメージ

項番	ページ	意見の概要	対 応
9	13, 15, 17	リニア時代の新たなライフスタイルのイメージについて、三重県より都会が良いように見えるので、三重との関係性について表現を工夫した方が良い。(有識者)	<ul style="list-style-type: none"> ・P13 のイメージ図を一部修正。 ・イメージ図下欄に補足説明文を追記（戦略2【P15】、戦略3【P17】も同様）。

戦略3 新たな玄関口から生まれるビジネス交流の拡大

項番	ページ	意見の概要	対 応
10	16	取組3で「災害に備えたバックアップ機能の強化、リスクの分散」とあるが、県内企業が県外へ機能移転するイメージなのか、県外企業が県内に機能移転するイメージなのか不明瞭。(市町)	取組3を「 <u>行政・企業・高等教育機関の機能移転やバックアップの拠点となる三重に</u> 」に修正。

6 基本戦略を支える基盤づくり

(1) リニア三重県駅を核とした交通ネットワークの形成

項番	ページ	意見の概要	対 応
11	18, 20	めざす姿に「県内外の観光・ビジネス交流が飛躍的に発展」とあるが、県外とのアクセスについて記述すべきではないか。(県議会)	<ul style="list-style-type: none"> ・取組2「新たな玄関口とつながる道路ネットワークの整備」の検討テーマに「●県内外との交流・連携を支える道路ネットワーク強化」を追記。 ・P20 に広域圏高速交通ネットワーク図を追加。
12	18	県内各地への交通ネットワークアクセスについて、かなり有利な利便性をリニア三重県駅に見出さないと、利用者はリニア名古屋駅から私鉄接続による県内への移動を選択し、リニア三重県駅の利用率が上がらないのではないか。(経済団体)	取組3の2つ目の●を「 <u>東京・名古屋間の開業および全線開業のステージ毎に応じた県内外の既設鉄道網の利便性・快適性の向上（乗り換え利便性、高速化、観光列車・直通列車の運行等）</u> 」に修正。

(2) リニア三重県駅を核としたまちづくり

項番	ページ	意見の概要	対 応
13	19	他県のリニア戦略では、駅周辺のまちづくりにかかる役割分担について記述されており、混乱のないように同様に記述すべき。(県議会)	2つ目の■を「～民間資本の誘致や誘導などを含めて <u>機能配置や、整備・運営手法、役割分担等について検討を深めていく必要があります。</u> 」に修正。

・リニア三重県駅を核とした交通ネットワークイメージ

項番	ページ	意見の概要	対 応
14	20, 21	交通ネットワークイメージ図について、この図は高速バスを核としたイメージと見えるため、公共交通や道路を含めたイメージとしたほうが良い。(県議会)	<ul style="list-style-type: none"> ・交通ネットワークのイメージ図を修正。 ・P21 に次世代交通のイメージ図を追加。

7 これからの取組

項番	ページ	意見の概要	対 応
15	22	県内の連携体制をどのように構築するのか(産官学足並みをそろえて、戦略を進めていく体制をつくることができるか)。(有識者)	「みえリニア戦略プラン(仮称)」の策定に向けて、新たな検討体制を構築する予定。

3 今後の対応

「三重県リニア基本戦略(仮称)」が示す「めざす三重の姿」の実現に向け、具体的な取組をまとめた行動計画として「みえリニア戦略プラン(仮称)」の策定に着手します。